

国 語

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
文学国語	2単位	普通科（Ⅰ・Ⅱ型）	2年

教 科 書	高等学校 文学国語 (第一学習社)	副 教 材	カラー版 新国語便覧 (第一学習社)
-------	----------------------	-------	--------------------

科目の目標	(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	近代の小説Ⅰ「山月記」 近代の詩「永訣の朝」 創作Ⅰ 詩の創作と鑑賞	多角的な視点から文章を読解し、作品の多様な価値を捉える力を養う。
2 学 期	近代の詩「小諸なる古城のほとり」・「風船乗りの夢」 近代の小説Ⅱ「こころ」 創作Ⅱ 小説の創作と鑑賞	多角的な視点から読解される内容を、作品や作者の背景をふまえて解釈する力を養う。
3 学 期	近代の随想「花のいざない」 近代の小説Ⅲ「檸檬」 戦争と文学「わたしが一番きれいだったとき」	多角的な視点から作品の価値を見出し、読解した内容を批評する中で自分の解釈を確立する力を養う。
備 考 (学習のポイント)	1 復習を必ず行うこと。板書を見ながら今日の授業を頭の中で再現すること。 2 国語の学習において、要約と説明は鍵である。文章の要点を説明し、また本文を要約して、学習内容の定着を図ること。 3 知らないことは考えられない。積極的に読書し、自分の知見を広げること。	

評 価 規 準	知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、我が国の言語文化に対する理解を深めているか。
	思考・判断・表現	創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになっているか。
	主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、学習内容を積極的に吸収し、自分自身を成長させようとしているか。

定 期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学年末
実 施 予 定	○	○	○	○	○

評 価 方 法	学習への取組をⅠ【知識・技能】、Ⅱ【思考力・判断力・表現力等】、Ⅲ【主体的に学習に取り組む態度】の三観点で評価をする。評価の対象と観点は以下の通り。 ○ 定期考査 … Ⅰ・Ⅱ の観点 ○ ノート内容 … Ⅱ・Ⅲ の観点 ○ 授業成果物（レポート、感想文、提出物等） … Ⅱ・Ⅲ の観点 ○ 授業態度（真面目な態度、積極的な取組） … Ⅲ の観点
---------	---

国 語

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
論理国語	2単位	普通科（Ⅰ型）	2年

教 科 書	論理国語（大修館書店）	副 教 材	カラー版 新国語便覧（第一学習社）
-------	-------------	-------	-------------------

科目の目標	(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	評論Ⅰ 「余白の美学」 評論Ⅱ 「人工知能の可能性と罠」 論理的表現Ⅰ 立場を明確にして書く	文章中の話題と主張を意識しながら読解する力を養う。
2 学 期	評論Ⅲ 「敬語への自覚、他者への自覚」 論理的表現Ⅱ 「情報の分類とレポート」 評論Ⅳ 「スキーマと記憶」 論理的表現Ⅲ 論理的な文章構成	筆者の主張と論理の展開を適切に把握する力を養う。
3 学 期	評論Ⅴ 「「である」ことと「する」こと」 論理的表現Ⅳ 文章を批評する	筆者の論理を捉え、論理の背景を捉える力を養う。
備 考 (学習のポイント)	1 復習を必ず行うこと。板書を見ながら今日の授業を頭の中で再現すること。 2 国語の学習において、要約と説明は鍵である。文章の要点を説明し、また本文を要約して、学習内容の定着を図ること。 3 知らないことは考えられない。積極的に読書し、自分の知見を広げること。	

評 価 規 準	知識・技能	実社会に出て必要となる国語の語彙や文法的な知識などを身に付けている。				
	思考・判断・表現	論理的、批判的に考えることができる。また、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを論理的に展開し、明快に主張を述べることができる。				
	主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、学習内容を積極的に吸収し、自分自身を成長させようとしている。				
定 期 考 査		1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学年末
実 施 予 定		○	○	○	○	○
評 価 方 法		学習への取組をⅠ【知識・技能】、Ⅱ【思考力・判断力・表現力等】、Ⅲ【主体的に学習に取り組む態度】の三観点で評価をする。評価の対象と観点は以下の通り。 ○ 定期考査 … Ⅰ・Ⅱ の観点 ○ ノート内容 … Ⅱ・Ⅲ の観点 ○ 授業成果物（レポート、感想文、提出物等） … Ⅱ・Ⅲ の観点 ○ 授業態度（真面目な態度、積極的な取組） … Ⅲ の観点				

公 民

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
公共	2単位	普通科	2年

教 科 書	高等学校 公共（第一学習社）	副 教 材	クローズアップ 公共（第一学習社）
-------	----------------	-------	-------------------

科目の目標	・現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、情報を適切に調べまとめる技能を身に付ける。 ・社会の諸課題の解決に向けて、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	第1編 公共の扉 1 公共的な空間をつくる私たち 2 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 3 公共的な空間における基本原理 第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち 1 法的な主体となる私たち	・公共的な空間をつくる私たちについて、現代の諸課題を主体的に解決しようと考察する。
2 学 期	2 政治的な主体となる私たち 3 経済的な主体となる私たち	・よりよい社会は、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することで築かれるものであることについて理解する。
3 学 期	3 経済的な主体となる私たち 第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	・国際協力のあり方、国際協調の重要性から、日本の役割について自分自身の問題として、主体的に解決しようとする。
備 考 (学習のポイント)	1 教科書をしっかり読もう。 2 教科書の図版（グラフ・表・写真・絵）をよく見よう。 3 新聞・ニュースなどで、世の中の動きや問題点を知ろう。 4 常に「なぜ」という意識を持ち、自分で調べたり、考えたりする習慣を身に付けよう。	

評価規準	知識・技能	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。				
	思考・判断・表現	現実社会の諸課題の解決に向けて、公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。				
	主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。				
定期考査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末	
実施予定	○	○	○	○	○	
評価方法	定期考査、ノート提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○ 授業態度（意欲的な態度、積極的な発表） ○ ノート・課題提出（日常の課題及び長期休業中の課題） ○ 班学習での取組（話し合いの態度、積極的な発表）					

地理歴史

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
地理探究	2単位	普通科	2年

教科書	新詳地理探究（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）	副教材	新編地理資料（東京法令出版）
-----	------------------------------	-----	----------------

科目の目標	地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、国際社会に主体的に生きる資質・能力を養う。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	自然環境 1 地形 2 気候	- 世界の大地形の形成や種々の地形の特質を考察する。 - 世界の気候区の成因・特徴を学ぶ。
2 学 期	3 日本の自然環境 4 地球環境問題 資源と産業 1 農林水産業 2 食料問題 3 エネルギー・鉱産資源	- 持続可能な社会へのための取組について考察する。 - 世界の農牧業の特質や水産業の現況を理解する。 - 食料分配の世界的な偏りの原因について追究する。
3 学 期	4 資源・エネルギー問題 5 工業 6 第3次産業	- 地下資源の利用と分布や動向を考察する。 - 世界の工業の発達・立地や現状・課題を考察する。
備 考 (学習のポイント)	1 学習プリントはきちんと書き込み、積極的にメモ書きをしよう。 2 家庭学習では、教科書・資料によく目を通して、学習の復習をしよう。 3 地名などは地図帳を利用して、しっかりその位置を確認しよう。 4 社会の動きに注目し、学習内容と世界の動向とを結びつけて考えよう。	

評価 規 準	知識・技能	世界の生活文化の多様性や、地理的課題を理解しているとともに、調査や資料から情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。				
	思考・判断・表現	地理的な課題の解決に向けて考察したことを、効果的に説明できる。				
	主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現を視野に、地理に関わる課題を主体的に追究、解決しようとしている。				
定期考査		1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
実施予定		○	○	○	○	○
評価方法		定期考査、学習プリント提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○学習プリント提出（授業中の取組や家庭での復習状況） ○授業態度（意欲的な態度、発表内容） ○課題提出（ワーク作業や長期休業中の課題など） ○定期考査（考査範囲の適切かつ計画的な学習成果）				

地理歴史

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
日本史探究	2単位	普通科	2年

教 科 書	詳説日本史（山川出版社）	副 教 材	新詳日本史（浜島書店）
-------	--------------	-------	-------------

科目の目標	社会的現象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	第1部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 第2章 古墳とヤマト政権 第3章 律令国家の形成	・原始・古代の文化の特徴を理解する。 ・国家の形成と諸制度の整備を世界史的視野から考察する。
2 学 期	第4章 貴族政治の展開 第2部 中世 第5章 院政と武士の躍進 第6章 武家政権の成立	・古代から中世への展開を通して政治の変遷と民衆の成長を中心に歴史の流れを理解する。
3 学 期	第7章 武家社会の成長	・武士がどのような社会を形成したのか土地や税制度など経済的視点から考察する。
備 考 (学習のポイント)	1 教科書をしっかり読み、ページ下の（注）の文章にも注意しよう。 2 教科書に掲載されている図版や史料などにも目を通しておこう。 3 語句や人名を単に覚えるのではなく、歴史の流れのなかで理解しよう。 4 人名や事項を正確な漢字で書けるようにしておこう。 5 テレビや本・雑誌・新聞で歴史的なものに注意しておき、率先して見たり読んだりしよう。	

評 価 規 準	知識・技能	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的に捉えて理解している。				
	思考・判断・表現	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察し、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を身に付けている。				
	主体的に学習に取り組む態度	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深めている。				
定 期 考 査		1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学年末
実 施 予 定		○	○	○	○	○
評 価 方 法		定期考査、ノート提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○授業態度（まじめな態度、発表内容） ○課題提出（長期休業中の課題など） ○定期考査（計画的な学習計画と成果）				

数 学

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
数学Ⅱ	2単位	普通科（Ⅱ型）	2年

教 科 書	新編数学Ⅱ（数研出版）	副 教 材	基本と演習テーマ数学Ⅱ（数研出版）
-------	-------------	-------	-------------------

科目の目標	基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	第1章 式と証明 式と計算 等式・不等式の証明	- 多項式の除法や分数式の計算をする。 - 等式や不等式の性質を利用して、様々な等式や不等式を証明する。
2 学 期	第2章 複素数と方程式 複素数と2次方程式の解 高次方程式	数の概念の範囲を広げ、方程式を解く。
3 学 期	第3章 図形と方程式 点と直線 円 軌跡と領域	方程式・不等式を座標平面上において図形で表現する。
備 考 (学 習 の ポ イ ン ト)	1 第1、2章は数学Ⅰ・A で学習した展開や因数分解の公式、順列、組み合わせの計算が必要となります。しっかり復習しておきましょう。 2 第3章は、図形を正確にかいたり、イメージしたりすることが重要になります。	

評 価 規 準	知識・技能	基本的な考え方、原理、法則、用語、記号の意味の理解している。
	思考・判断・表現	式、図、表、グラフ等を用いて、様々な課題を数学的に捉え、数学的論拠に基づいて事象を的確に判断・表現し、考察している。
	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し、問題解決において積極的に数学を活用している。

定 期 考 査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
実 施 予 定	○	○	○	○	○

評 価 方 法	定期考査、ノート提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○ ノート提出（予習・復習及び整理状況の確認） ○ 授業態度（まじめな態度、積極的な発表） ○ 小テスト（単元毎の小テストなど） ○ 課題提出（日常の課題及び長期休業中の課題）
---------	---

理 科

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
地学基礎	2単位	普通科（IB型）	2年

教 科 書	副 教 材
高等学校 地学基礎（啓林館）	センサー 地学基礎（啓林館）

科目の目標	身近な自然現象について学習させる。それらの事柄に普段から興味・関心を示す態度を持たせ、実験や作業学習を通して科学的に探求し、調べたことを表現する能力を身に付けさせると共に生活の中で何が重要かを判断し、自ら考え行動する態度を持たせる。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	第1部 固体地球とその活動 第1章 地球 第2章 活動する地球	・地球の姿、構造について理解する。 ・プレートの運動による地震や火山活動について理解する。
2 学 期	第2部 大気と海洋 第1章 大気 of 構造 第2章 太陽放射と大気・海水の運動 第3章 日本の天気 第3部 移り変わる地球 第1章 地球の誕生	・気象現象について理解する。 ・宇宙の誕生と進化について理解する。
3 学 期	第3部 移り変わる地球 第2章 地球と生命の進化 第3章 地球史の読み方 第4部 自然との共生 第1章 地球環境と人類 第2章 地震災害・火山災害 第3章 気象災害 第4章 災害と社会 第5章 人間生活と地球環境の変化	・地球誕生から現在までの生命の進化の流れについて理解する。 ・災害に対する取り組みを理解する。
備 考 (学習のポイント)	台風・地震・火山など、様々な災害すべて地学の中で勉強するものばかりです。将来、自分が災害にあっても適切な行動がとれるように、普段から地球上で起こる出来事に深く関心を持つようにしましょう。また、地球環境などへの配慮など、将来にわたって大切なことばかりです。授業に集中して、しっかり学習に取り組みましょう。	

評 価 規 準	知識・技能	・地学の用語と内容を覚え、各種現象に応用できるか。 ・これまで学習した知識を生かして地学の現象を理解できるか。
	思考・判断・表現	・正しい科学的考え方のもとに現象理解ができているか。
	主体的に学習に取り組む態度	・地学に興味を持ち、地学の内容の理解に努めているか。

定 期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学年末
実 施 予 定	○	○	○	○	○

評 価 方 法	定期考査、ノート提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○ ノート提出（整理状況及び工夫の確認） ○ 授業態度（教科に対して真摯で積極的か。） ○ 課題提出（週末課題及び長期休業中の課題）
---------	--

保健体育

科目名	単位数	学科	学年
体育	2単位	普通科	2年

教科書	新高等保健体育 (大修館書店)	副教材	最新スポーツルール24 (大修館書店)
-----	-----------------	-----	---------------------

科目の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学期	体づくり運動（通年）集団行動 新体力テスト、陸上競技 球技Ⅰ〔個人的技能、集団的技能、ゲーム及び審判法〕 【男子】【女子】（バレーボール）（ソフトボール） 体育理論（人間にとって「動く」とは何か、スポーツの始まりと変換）	・ 自己の体力や生活に応じた取り組み、実生活に役立てる。 ・ 自己に適したペースを維持して走る。
2 学期	球技Ⅱ〔個人的技能、集団的技能、ゲーム及び審判法〕 【男子】【女子】（サッカー・バスケットボール） 陸上競技〔中・長距離走〕 校内マラソン大会【男子】8km【女子】4km 体育理論（スポーツ文化の楽しみ方、オリンピックと国際理解）	・ 作戦や状況に応じた技能や仲間と連携してゲームが展開できるようにする。
3 学期	球技Ⅲ〔個人的技能、集団的技能、ゲーム及び審判法〕 【男子】【女子】（バスケットボール・バレーボール） 体育理論（スポーツの経済、ドーピングとスポーツ倫理）	・ スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴について理解できるようにする。
備 考 (学習のポイント)	1 自らの特性を生かしたり、伸ばしたりする上で、能力等に応じて運動を選び、その運動を得意にしていくなどして生涯スポーツの基礎づくりをしよう。 2 集団としての行動を秩序正しく、能率的に行えるようにしよう。（5分前行動） 3 互いに協力して自己責任を果たそう。	

評価規準	知識・技能	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための倫理について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。				
	思考・判断・表現	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。				
	主体的に学習に取り組む態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に自主的に取り組もうとしている。				
定期考査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末	
実施予定						
評価方法	授業態度、運動の技能、体育理論の理解度等を総合的に評価する。 ○ 授業態度・意欲（授業の参加状況、意欲的でまじめな態度） ○ 運動の技能（各種運動の技能の習熟度、審判法の理解度） ○ 体育理論の理解度（理解度の確認テスト）					

保健体育

科目名	単位数	学科	学年
保健	1単位	普通科	2年

教科書	新高等保健体育（大修館）	副教材	新高等保健体育ノート（大修館）
-----	--------------	-----	-----------------

科目の目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学期	3単元 生涯を通じる健康 思春期と健康 性意識の変化と性行動の選択 結婚生活と健康 妊娠・出産と健康 家族計画 加齢と健康 高齢社会に対応した取り組み	・生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理や環境づくりについて理解を深める。
2 学期	3単元 生涯を通じる健康 働くことと健康 労働災害の防止 働く人の健康づくり 4単元 健康を支える環境づくり 大気汚染と健康 水質汚濁、土壌汚染と健康 健康被害を防ぐための環境対策	・生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理や環境づくりについて理解を深める。 ・環境汚染の防止及び改善策の必要性を理解する。
3 学期	4単元 環境衛生に関わる活動 食品の安全と健康 食品の安全性を確保する取り組み 保険制度とその活用 医療品の制度とその活用 様々な保健活動や対策 誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくり	・環境と食品の安全性、労働災害防止のための健康管理や安全管理について理解する。 ・保健・医療制度や機関の適切な活用、医薬品の正しい使用方法を理解する。
備 考 (学習のポイント)	1 心身の健康課題や健康に対する考え方の変化に対応するため、新聞・ニュース等に関心を持ち、よく見よう。 2 教科書・ノートは忘れず持参し、板書等はノートに必ず取ろう。 3 提出物は期限を守り、確実に提出しよう。	

評価 規 準	知識・技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。
	思考・判断・表現	健康について自他の社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的に応じて他者に伝えている。
	主体的に学習に取り組む態度	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力のある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。

定期考査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
実施予定		○		○	○

評価方法	定期考査、ノート提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○ノート提出（予習・復習及び整理状況の確認） ○授業態度（まじめな態度、積極的な発表） ○課題・レポート提出（日常の課題及び長期休業中の課題）
------	---

芸 術

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
美術 I	2単位	農業科 (畜産科)	2年

教 科 書	美術1 (光村図書)	副 教 材	
-------	------------	-------	--

科目の目標	芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	デザイン 使うためのデザイン 彫刻 手で握りやすい形の追求 木材の加工と仕上げ デザイン 紙による多面体の制作	・身の回りの道具の機能性に気付く。 ・自分が持ちやすい、使い易い形の追求、制作をする。
2 学 期	絵画 色彩学習 デザイン 色の属性についての理解 着彩方法、混色方法について 粘土で原型を作る デザイン 連続模様の制作 繰り返しのデザイン 消しゴムはんこの制作	・色彩についての理解を深める。 ・立体的に表現するおもしろさを味わう。 ・繰り返し模様のパターンを研究する。
3 学 期	デザイン パッケージデザインについて 工芸 ノートの制作 書くためのデザインとは 材料 道具の理解と制作 デザイン 書体、マークの研究	・問題解決の回答としてのデザインの意義を理解する。 ・オリジナルのマークを考える。 ・フォントについて学習する。
備 考 (学習のポイント)	1 様々な技法を習得し、思い通りに表現できるようにしよう。 2 自分の考えているイメージを形にしよう。 3 様々な作品のよさを発見し言葉にして伝えよう。	

評 価 規 準	知識・技能	授業の内容を習得し、芸術文化への理解を深めている。鑑賞を通して感性を高め表現することができる。
	思考・判断・表現	作品の主題を理解し、アイデアやイメージを膨らませ、表現の方法を工夫することができる。
	主体的に学習に取り組む態度	美術に関心を持ち、積極的に授業に取り組み、意欲的に表現し鑑賞することができる。

定 期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学年末
実 施 予 定					

評 価 方 法	学習への取組をⅠ【知識・技能】、Ⅱ【思考力・判断力・表現力等】、Ⅲ【主体的に学習に取り組む態度】の三観点で評価をする。評価の対象と観点は以下のとおり。 作品、ノート提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○授業プリントの提出 (授業内容の理解の確認) … Ⅰ・Ⅱ の観点 ○授業態度 (真面目な態度、積極的な発表など) … Ⅲ の観点 ○課題提出 (日常の課題及び長期休業中の課題) … Ⅱ・Ⅲ の観点 ○鑑賞プリントの提出 … Ⅱ・Ⅲ の観点
---------	--

芸 術

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
音楽Ⅰ	2単位	普通科（Ⅱ型）	2年

教科書	音楽Ⅰ Tutti plus（教育出版）	副教材	
-----	----------------------	-----	--

科目の目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	歌唱表現 イタリア歌曲 器楽表現 リコーダー ボディパーカッション 鑑 賞 歌劇	・Caro mio ben を正しい発音で歌う。 ・いつも何度でもを二重奏する。 ・体を使って様々な音色を出して、アンサンブルをする。 ・歌劇の魅力を理解する。
2 学 期	器楽表現 ヴァイオリン 創作表現 物語と音楽の関わり 鑑 賞 変奏曲 蘭陵王	・ヴァイオリンで簡単な曲を演奏する。 ・物語の情景に合ったBGMを創作する。 ・24の奇想曲を鑑賞して、ヴィルトゥオーソの偉大さについて理解する。 ・雅楽の歴史や仕組みについて理解する。
3 学 期	器楽表現 ギター 鑑 賞 世界の声の音楽、楽器の音楽	・難しいコードを用いてコード奏をする。 ・民族音楽の特徴を理解する。
備 考 (学習のポイント)	1 表現に必要な技能を身に付けるために、根気強く練習に取り組もう。 2 他者と積極的に意見を共有したりアンサンブルしたりしよう。 3 日常生活においても、様々な音楽と親しもう。	

評 価 規 準	知識・技能	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わりや音楽の多様性について理解し、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。
	思考・判断・表現	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫したり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりすることができる。
	主体的に学習に取り組む態度	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を身に付けている。

定 期 考 査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
実 施 予 定					

評 価 方 法	実技テストや小テスト、ワークシートの記述内容、授業態度などを総合的に評価する。 ○実技テスト ○小テスト ○ワークシートの記述内容 ○授業態度（積極性、練習への取り組み等）
---------	--

外国語（英語）

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
英語コミュニケーションⅡ	2単位	普通科（Ⅱ型）	2年

教科書	LANDMARK Fit English Communication Ⅱ (啓林館)	副教材	Enjoy! ドリルで英文法
-----	---	-----	----------------

科目の目標	外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深める。情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	Lesson 1 A Swedish Girl's Discoveries in Japan Lesson 2 A Message from Emperor Penguins	・不定詞、動名詞、完了形、 受動態を使った英文
2 学 期	Lesson 3 Tokyo's Seven-minute Miracle Lesson 4 Seeds for the Future	・分詞、不定詞、関係代名 詞、5文型を使った英文
3 学 期	Lesson 5 Gaudi and His Messenger	・分詞構文、付帯状況 with を使った英文
備 考 (学習の ポイント)	1 教科書の内容が理解できる。 2 各レッスンで示された表現を使い、身の回りのことを英語で表現できる。 3 辞書やノートを繰り返し活用して、英語で考えることができる。	

評 価 の 観 点	知識・技能	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。				
	思考・判断・表現	簡単な英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを相手に伝えていく。背景にある文化などを理解している。				
	主体的に学習に取り組む態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。				
定 期 考 査		1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
実 施 予 定		○	○	○	○	○
評 価 方 法		定期考査、ノート提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○ ノート提出（予習・復習及び整理状況の確認） ○ 授業態度（まじめな態度、積極的な発表、ペアワーク） ○ 課題提出（日常の課題及び長期休業中の課題） ○ 小テスト（単語・その他）				

商 業

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
ビジネス基礎	2単位	普通科（Ⅱ型）	2年

教 科 書	ビジネス基礎（実教出版）	副 教 材	ビジネス基礎準拠問題集（実教出版） ビジネス計算実務検定模擬試験問題集1級 （実教出版）
-------	--------------	-------	--

科目の目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を育成することを目指す。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	第1章 商業の学習とガイダンス 第2章 ビジネスとコミュニケーション 第3章 経済と流通の基礎 第4章 さまざまなビジネス 第7章 ビジネス計算	・ 商業の学習内容を知り、関連する職業や卒業後の進路について考える。 ・ 経済活動における流通の意義や役割について理解する。
2 学 期	第7章 ビジネス計算 全商ビジネス計算検定1級 第5章 企業活動の基礎 第6章 ビジネスと売買取引	・ 売買取引の手順や代金決済方法といった実務の取引について理解する。 ・ 企業形態と経営組織、税などの企業活動の基礎的な知識を身に付ける。
3 学 期	第8章 身近な地域のビジネス 全商商業経済検定3級 実習（地域マップの作成） 来客の対応・電話の対応	・ 身近な地域のビジネスについて理解し、課題をもとに振興策を考える。 ・ ビジネスに対する心構えやルールとマナーについて理解する。
備 考 （ 学 習 の ポ イ ン ト ）	1 商業の様々な知識を学ぶことで将来に役立てたり、進路選択の幅を広げよう。 2 電卓の機能を使いこなし、正確にビジネスに関する計算ができるようになる。 3 ビジネスマナーやルール、コミュニケーションの方法などを学び、良好な人間関係を構築できるようにしよう。	

評 価 規 準	知識・技術	ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解し、ビジネスの様々な場面で役に立つ、ビジネスに関する基礎的な知識と技術を身に付けている。
	思考・判断・表現	ビジネスをはじめとして様々な知識、技術を活用し、ビジネスに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、市場の動向、ビジネスに関する理論、データ、成功事例や改善に要する根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。
	主体的に学習に取り組む態度	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らビジネスについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して、当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的にに関わり、ビジネスの創造と発展に責任をもって取り組もうとしている。

定 期 考 査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
実 施 予 定	○	○	○	○	○

評 価 方 法	定期考査、課題提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○ 授業態度（まじめな態度、積極的な発表） ○ 課題提出（ワークブック、プリントなど） ○ 資格取得
---------	---

商 業

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
原価計算	2単位	普通科（Ⅱ型）	2年

教 科 書	原価計算（東京法令出版）	副 教 材	標準検定簿記問題集 1 級原価計算（東京法令出版） 簿記実務検定模擬試験問題集 1 級原価計算 （実教出版）
-------	--------------	-------	--

科目の目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動をおこなうことなどを通して、原価情報の提供と活用に必要な資質・能力を育成することを目指す。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
2 学 期	第Ⅰ編 原価と原価計算 第Ⅱ編 原価の費目別計算	・原価の概念、原価計算の目的、製造業における特色、原価計算の概要を理解する。 ・原価の費目別計算を行うための基礎的な知識と技術を習得する。
3 学 期	第Ⅲ編 原価の部門別計算と製品別計算 第Ⅳ編 内部会計 第Ⅴ編 標準原価計算 第Ⅵ編 直接原価計算	・個別原価計算・部門別原価計算・総合原価計算を取り扱い、原価の部門別計算と製品別計算を行うために必要な知識と技術を習得する。 ・製品の完成・販売と本社・興譲館の取引の記帳及び製造業の決算を取り扱い、製品の完成・販売に関する会計処理と決算を行うための基礎的な知識と技術を習得する。 ・標準原価計算を行うための基礎的な知識と技術を習得する。 ・直接原価計算の有用性について理解する。
備 考 （ 学 習 の ポ イ ン ト ）	1 製造業における原価の計算方法と会計処理を学習しよう。 2 予習よりも復習に重点をおいて、理解できるまで同じ問題を反復して解き、理解を深めよう。 3 3年の6月に1級（原価計算部門）の取得を目指そう。 ※ 原価計算は週当たり5単位時間で、12月から3月まで延べ70時間実施する。	

評価基準	知識・技術	原価計算に関する会計処理および原価情報の活用に関する論理的な知識と技術にとどまらず、実務と関連づけられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ実務に即した知識と技術が身に付いている。				
	思考・判断・表現	原価計算に関する会計処理および原価情報の活用方法の妥当性と実務に適用することにもなる課題を見いだすとともに、原価情報が社会に及ぼす影響を踏まえ、原価計算に関する理論、企業活動の流れなど科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく課題に対応する力が身に付いている。				
	主体的に学習に取り組む態度	企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力および適切な原価管理を行う力の向上を目指して自ら原価計算について学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、適切な原価情報の提供と効果的な活用に責任をもって取り組む態度が身に付いている。				
定期考査実施予定	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末	
					○	
評価方法	定期考査、課題提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○授業態度 ○課題提出 ○単元別確認小テスト ○資格取得					

商 業

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
情報処理	2単位	普通科（Ⅱ型）	2年

教 科 書	情報処理（東京法令出版）	副 教 材	全商情報処理検定試験問題集2級(東京法令出版) 能力に応じて上位級の問題集も使用
-------	--------------	-------	---

科目の目標	ビジネスに関する情報を収集・処理・分析し、表現する知識と技術を習得させ、情報の意義や役割について理解させるとともに、ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用する能力と態度を育てる。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	第4章 ビジネス文書の作成 第1章 企業活動と情報処理 全商ビジネス文書実務検定（7月）希望者・希望級	・文書作成ソフトウェアの特徴、ビジネス文書の種類と作成などの知識や技術を身に付ける。 ・ビジネスと情報や情報デザイン、情報モラルに関する基礎的なことについて理解する。 ・資格取得を目指す。
2 学 期	第3章 情報の収集と分析 第2章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク 全商情報処理検定（9月）全員3級 全商ビジネス文書実務検定（11月）希望者・希望級	・統計や表計算ソフトウェアの特徴、情報の分析や問題の発見と解決方法について理解する。 ・コンピュータシステムの概要と情報通信ネットワークのしくみと構成、情報セキュリティの確保について理解する。
3 学 期	第5章 プレゼンテーション プレゼンテーション発表会 全商情報処理検定（1月）全員2級	・プレゼンテーションの技法やプレゼンテーションソフトウェアの活用についての基礎的な知識や技術を身に付ける。 ・資格取得を目指す。
備 考 （ 学 習 の ポ イ ン ト ）	1 将来的に必要なとなるワープロソフトや表計算ソフトについての知識や技術を身に付けよう。 2 積極的に学び、わからないことは質問などを行い、その場で解決するようにしよう。 3 情報化社会の変化は著しくなっています。社会の変化に即時対応できる情報収集能力を身に付けよう。	

評価 規 準	知識・技術	情報および情報技術を活用するための基礎的・基本的な知識を身に付け、ビジネスの諸活動に関する意義や役割を理解するとともに、合理的にその技術を適切に活用している。				
	思考・判断・表現	基礎的・基本的な知識と技術を活用して、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。				
	主体的に学習に取り組む態度	情報処理機器の活用について関心を持ち、その知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組んでいる。検定試験にも積極的に挑戦し、課題をきちんと提出している。				
定期 考 査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末	
実施 予 定		○		○	○	
評価 方 法	○ 定期考査、授業中における実技テスト、実習課題 等を総合的に評価する。 ○ 授業態度（真面目さ、積極性、協調性 等） ○ 実技（教科書や問題集における実技問題など） ○ 筆記（教科書や問題集における筆記問題など）					

商 業

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
簿記	3単位	普通科（Ⅱ型）	2年

教 科 書	簿記（東京法令出版）	副 教 材	標準検定簿記問題集 2・3級（東京法令出版） 簿記実務検定模擬試験問題集 2級（実教出版）
-------	------------	-------	--

科目の目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、取引の記録と財務諸表の作成に必要な資質・能力を育成する。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	第Ⅰ編 簿記の基本 第Ⅱ編 各種取引の記帳 第Ⅲ編 決算（1）	・簿記の概要、資産・負債・純資産・収益・費用の概念、貸借対照表・損益計算書の役割、簿記の一巡の手続き、しくみを理解する。 ・各取引の処理を行うための知識と技術を理解する。 ・決算整理の方法と財務諸表の作成、決算を行うために必要な知識と技術を習得する。
2 学 期	第Ⅳ編 会計帳簿 第Ⅴ編 特殊な取引 第Ⅵ編 決算（2） 第Ⅶ編 本支店会計 第Ⅷ編 会計ソフトウェア （発展的な内容）	・会計帳簿の種類・伝票の利用など、記帳の合理的な会計処理についての知識や技術を習得する。 ・本支店間の取引の処理や合併財務諸表等を作成する知識と技術を習得する。 ・コンピュータ会計により効率的に取引の記録と財務諸表の作成を行う方法を理解する。
備 考 （ 学習の ポイント）	1 全員2年次から学習する科目でスタートラインは同じです。授業の内容は、ワークブックを活用し反復練習することにより、記帳技術を身に付けましょう。 2 日々の課題や小テストを地道にこなし、1月の検定で2級取得を目指しましょう。 3 資格は進路選択の幅を広げるだけでなく、自分の自信にもつながります。 ※ 簿記は、週あたり5時間で4月から11月まで延べ105時間実施する。	

評 価 規 準	知識・技術	簿記に関する理論的な知識にとどまらず、実務と関連づけ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ実務に即した知識と技術が身に付いている。				
	思考・判断・表現	簿記をはじめとしたさまざまな知識・技術などを活用し、取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と実務に適応することに伴う課題を見い出すとともに、会計情報が社会に及ぼす影響を踏まえ、簿記に関する理論、企業活動の流れなど科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく課題に対応する力が身に付いている。				
	主体的に学習に取り組む態度	企業会計に関する法規と基準を適切に適応する力の向上を目指してみずから簿記について学ぶ態度および組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識を持ち、他者との信頼関係を構築して積極的に関わり、記帳・決算などの適正な取引の記録と財務諸表の作成に責任をもって取り組む態度が身に付いている。				
定 期 考 査 実 施 予 定		1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
		○	○	○	○	
評 価 方 法		定期考査、課題提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○ 課題（問題集・プリント）の解答状況 ○ 授業態度 ○ 課題提出（日々の課題及び長期休業中の課題） ○ 資格取得				

情 報

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
情報Ⅰ	2単位	普通科	2年

教 科 書	副 教 材
高等学校 情報Ⅰ（数研出版）	高等学校 情報Ⅰ サポートノート（数研出版）

科目の目標
これからの、社会全体の情報通信技術を使った高機能化と効率化という大改革に適應すべく、仕事や生活でプログラミングを活かせる知識と能力を培う。

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	第1編 情報社会の問題解決 第1章 情報とメディア 第2章 情報社会における法とセキュリティ 第3章 情報技術が社会に及ぼす影響 第2編 コミュニケーションと情報デザイン 第1章 情報のデジタル表現 第2章 コミュニケーション手段の発展と特徴 第3章 情報デザイン	- 問題解決の目的や状況に応じて、情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決する方法を考える。 - 情報のデジタル化の基礎的な知識として、アナログとデジタルのちがいとデジタル情報の特徴を理解する。 - 通信の歴史を概観し、コミュニケーション手段の発展について理解する。
2 学 期	第4章 プレゼンテーション 第3編 コンピュータとプログラミング 第1章 コンピュータのしくみ 第2章 プログラミング 第3章 モデル化とシミュレーション 第4編 情報通信ネットワークとデータの活用 第1章 ネットワークのしくみ 第2章 データベース	- プログラミング言語の実行のしくみやプログラミングの基本を理解するとともに、プログラミングによってコンピュータを活用する方法を身に付ける。 - 情報通信ネットワークの基本的な方式やプロトコルの役割について理解する。
3 学 期	第3章 データの分析 巻末実習	データベースの概念及びデータベース管理システムの機能やデータの損失を防ぐしくみについて理解する。
備 考 (習 の ポ イ ン ト)	1 何気なく使っている言葉である「情報」とは何かを理解しよう。 2 様々なメディアの特徴を知り、情報の適切な表現形式を理解しよう。 3 情報や情報技術を活用して、問題を発見・解決する方法を身に付けよう。	

評価 規 準	知識・技能	・情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。				
	思考・判断・表現	・事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。				
	主体的に学習に取り組む態度	・情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。				
定期 考 査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末	
実施 予 定		○		○	○	
評価 方 法	○ 定期考査、授業中における実技テスト、実習課題 等を総合的に評価する。 ○ 授業態度（真面目さ、積極性、協調性 等） ○ 実習（ソフト使用法の理解 個性的で目的の意図を理解した作品 等）					

総 合

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
アグリデザイン	1単位	普通科（Ⅱ型）	2年

教 科 書	「アグリデザイン」テキスト (野村高校)	副 教 材	各種プリント（校内作成）
-------	-------------------------	-------	--------------

科目の目標	異なる教科を総合的に学ぶことによって、さまざまな教科の専門知識や技術を組み合わせ、実際の問題や課題に対して総合的に考え解決する能力を養う。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	理科 光合成、農業 夏野菜の定植、農業 夏野菜栽培の基礎、理科 光合成、家庭 夏野菜を使った料理①、農業 夏野菜の管理作業、理科 光合成色素の実験、家庭 夏野菜を使った料理②、理科 植物、農業 夏野菜の収穫、家庭 夏野菜を使った料理③、農業 夏野菜の収穫	・理科・家庭・農業で取り組む内容から専門的な知識と技術を理解し、身に付ける。
2 学 期	農業 6次産業化について、商業 デザイン、家庭 牛乳を使った料理①、農業 搾乳手順説明、農業 搾乳実習、商業 デザイン、家庭 牛乳を使った料理②、商業 原価計算、家庭 牛乳を使った料理③、商業 原価計算、農業 畜産について	・家庭・農業・商業で取り組む内容から専門的な知識と技術を理解し、身に付ける。
3 学 期	農業 馬という動物を知りましょう、理科 体内での情報伝達①、商業 デザイン、農業 動物とのふれあい、商業 デザイン、理科 体内での情報伝達②、農業 動物とのふれあい	・理科・農業・商業で取り組む内容から専門的な知識と技術を理解し、身に付ける。
備 考 (学習のポイント)	1 普段の授業で学ぶことと専門的な知識や技術を活用して、物事を総合的に考えることができるようにしよう。 2 自分の進路実現のために、意識しながら学習しよう。 ※この科目は、考查を実施しません。	

評価規準	知識・技能	・各教科の専門的な知識や技術を理解している。				
	思考・判断・表現	・いろいろな問題や課題を解決するために、各教科の専門的な知識や技術を適切に活用できる。				
	主体的に学習に取り組む態度	・いろいろな問題や課題を、総合的に考えて解決する能力を身に付けようと積極的に取り組んでいる。				
定期考査 実施予定	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末	
評価方法	授業態度や小テスト課題の提出状況等を総合的に評価する。 ○ 授業態度 ○ 小テスト ○ レポート課題提出 ○ テキスト活用					